

杓谷 茂樹

学科長・教授
修士(文学)

Shigeki Shakuya

✉ shigeki.shakuya@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

観光、文化遺産、文化イメージ、持続可能性、マヤ文明

プロフィール

2001年 総合研究大学院大学 文化科学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
2005年 中部大学 国際関係学部 国際文化学科 助教授
2010年 中部大学 国際関係学部 国際文化学科 教授
2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 教授
2023年 次世代考古学研究センター小松の石文化(日本遺産) 研究部門併任

研究分野

文化人類学 / 文化人類学・民俗学

所属学協会

観光学術学会、日本遺跡学会、日本文化人類学会、日本ラテンアメリカ学会、古代アメリカ学会、天理大学アメリカス学会

専門分野・研究分野

観光地で生産され消費される文化イメージ

「文化人類学」の授業で、私は文化というものを自分たちの「あたりまえ」として学生に語っている。「あたりまえ」が違うからカルチャーショックが起こるわけである。ところが、高度に観光化が進んだ場所では、その場所にとって「あたりまえ」のはずの文化が、観光客を送り込んでくる側の人々によって、一方的に操作され、勝手に語られるということが日常的に起こってきた。だが、最近では地元社会がこれに対して異議申し立てを行う形で、自律的に観光に関与するようになってきた。こうした地域住民による持続可能な観光のあり方の模索は、21世紀の観光研究の主要なテーマといえる。

研究内容

世界遺産チチェン・イツァとその周辺の地域社会を中心として

「マヤ文明」というとどんなイメージをお持ちだろうか？ 実は考古学や文化人類学の研究の進展が新たな知見を提供している一方で、相変わらず「謎」や「神秘」という言葉で語られるようなイメージがつきまとっているのが「マヤ文明」なのだ(写真1)。こうしたイメージは主に観光客となる外部の人間、あるいは観光地との間を仲介するメディアや観光業界の側



写真1. チチェン・イツァのピラミッド

で一方的に作られる(写真2)。その結果、当該文化の担い手である地域住民は観光の現場で「蚊帳の外」に置かれることになってきた(写真3)。

私の研究は、そうした状況下での文化イメージが日常的にいかにつくられ、またどのように売買されているのかを考察し、それに学術的な情報が適正に反映され、また文化の担い手である地域住民がちゃんと関わっていきけるような適切な方向性を見いだしていこうとするものであり、身近な地域創生の問題ともリンクする。

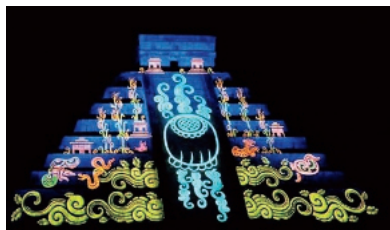


写真2. 夜に行われるプロジェクションマッピング



写真3. 遺跡公園内で不法に商売する地元の人たち



自分たちの「あたりまえ」が外から操作され勝手に語られる？

シーズ・地域連携テーマ例

- 世界遺産、ラテンアメリカ文化、マヤ文明に関する講演、レクチャー
- 世界遺産検定受検に関するアドバイス
- 文化財とまちづくりに関するアドバイス、etc.

論文

- 資源としての「古代都市チチェン・イツァ」 - 交叉するステークホルダーそれぞれの思惑と地元露店商、杓谷茂樹、古代アメリカ、第18号、pp.117-130、2015
- "Una perspectiva sobre el problema de la invasión ilegal de los vendedores locales en la Zona Arqueológica de Chichén Itzá, Yucatán, México", Seiichi Nakamura, Takuro Adachi and Masahiro Ogawa eds., Japanese Contributions to the Studies of Mesoamerican Civilizations: The 40th Anniversary of La Entrada Archaeological Project (Studies in Ancient Civilizations vol. 1), Institute for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University, 2023

書籍等出版物

- 『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021年。
- 「チチェン・イツァの観光振興と長期化する地元露店商の不法侵入問題」『古代アメリカの比較文明論 - メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』青山、米延、坂井、鈴木編、pp.317-328、京都大学学術出版会、2019年。
- 「多様なツーリズム マスツーリズムから「新しい観光」まで」石井久生、浦部浩之編、『世界地誌シリーズ10 中部アメリカ』、pp.121-132、朝倉書店、2018年。
- 「切り拓かれるべき自然、包み込む「自然」 - カンクン・ホテルゾーンの遺跡公園の見せ方を巡って」、天理大学アメリカス学会編、『アメリカのまなざし - 再魔術化される観光』、pp.232-251、天理大学出版部、2014年。

講演・口頭発表等

- マスツーリズム状況下の文化遺産と自然 - メキシカンカリブ北部の遺跡公園の事例から、杓谷茂樹、第18回国際ラテンアメリカ・カリブ研究会議 2017年7月27日
- 世界遺産チチェン・イツァの観光イメージ：継続する地元露店商の不法侵入と遺跡イメージの適切なコントロールについて、杓谷茂樹、第1回国際メソアメリカニスト会議 2016年10月30日

競争的資金等の研究課題

- 被征服者が生んだ現代メキシコとその軌跡：歴史的資源の通時的研究による新たな歴史像 日本学術振興会：科学研究費補助金：基盤研究(B)(一般) 2022年-2025年
- 「自然」が文化資源化されるマスツーリズムの状況の観光人類学的研究 日本学術振興会：学術研究助成基金助成金(基盤研究C)(一般) 2020年-2023年
- 植民地時代から現代の中南米の先住民文化 日本学術振興会：科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型)) 2014年7月-2019年3月

社会貢献活動

- 世界遺産検定監修 NPO法人世界遺産アカデミー(2016年-現在)